

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 31 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23320102

研究課題名(和文)日本語教育スタンダードにおける漢字力の評価に関する研究

研究課題名(英文) Research on the Assessment of Kanji Ability viewed from the Japanese Language Education Standards

研究代表者

加納 千恵子 (KANO, Chieko)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：90204594

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：外国人学習者を対象とした日本語教育スタンダードにおいてまだ適切に規定されていない、日本語の漢字および漢字語彙力の評価をどのようにするべきかを研究した。具体的には、日本語の他の技能との関わりにおいて漢字の運用力を診断的に測定するテストを開発し学習者に受験させるとともに、学習者自身に漢字に関して何ができると考えているのかをCan-do statements形式で評価させる調査紙を作成し実施して、テスト結果および学習者の属性等からその妥当性を検討した。また、WEB上でアクセス可能なテストシステムである「筑波日本語テスト集(TTBJ)」の中に、漢字力評価プログラムを構築し、公開することができた。

研究成果の概要(英文)：This research considers what should be done in the case of assessing kanji and kanji vocabulary ability, which has not yet been appropriately defined in the Japanese Language Standards for learners of Japanese as a second language. In particular, We developed a diagnostic test to measure kanji usage ability in relation to the other skill areas of the Japanese language and tested it on student participants, created and implemented a survey using Can-do statements in order to ascertain how the students themselves view their own kanji abilities, and considered the validity of the measure based on the results of the test and the attributes of the student participants. Additionally, We constructed and made publicly available a component to assess kanji ability within the "Tsukuba Test Battery of Japanese(TTBJ)", which is accessible for online use.

研究分野：日本語教育

キーワード：漢字力 評価 テスト can-do statements 日本語教育スタンダード

1. 研究開始当初の背景

(1)グローバル化する世界の言語教育において共通の評価の枠組みを提供する教育スタンダードの先行事例として、ヨーロッパでは「言語のためのヨーロッパ共通参照枠(CEFR)」があり、日本では国際交流基金がJF 日本語教育スタンダード(2010)を作成している。日本語を世界の多くの言語の中に正当に位置づけるためには、このような多言語に共通する評価の枠組みが必要であると考えられる。

(2)ここで問題となるのが日本語の平仮名、片仮名、漢字という3つの文字体系の併用という、世界に類を見ない表記システムの特異性である。特に、漢字の運用力の評価をどのようにすればよいかについては、従来の日本語教育スタンダードにおいて、その扱い方の指針すらまだ示されているとは言い難い。

2. 研究の目的

本研究では、(1)外国人学習者を対象とする日本語教育において、漢字および漢字語彙の運用力をどのように評価すればよいか、(2)日本語教育スタンダードの中にどのように位置づけたらよいかについて、基礎研究を行うことを目的とする。

3. 研究の方法

(1)従来の漢字の読み書きテストは、学習者の到達度を測るためには機能するが、その後の日本語学習に役立つような診断的評価、形成的評価としては不十分であるという前提に立ち、日本語の読み書きだけでなく、その他の知識・技能との関連において漢字および漢字語彙の運用力を測るための新しいタイプのテスト(漢字力診断テスト)を開発し、さまざまな属性の学習者に実施してデータを収集する。

(2)学習者自身による漢字力の自己評価の可能性を探るため、漢字に関して何ができるようになってきているかを自己モニターさせるためのCan-do statements(以下Cds)形式の調査紙を作成し、調査を実施する。

(3)テストの結果と自己評価の結果を学習者の属性等から分析・考察し、漢字力(漢字語彙力)の評価のあり方を検討する。

4. 研究成果

(1)漢字力を測定するためのテスト開発

平成23(2011)年度は、日本語教育スタンダードに関する先行文献の調査およびCdsに関する検討を行い、漢字力診断テストと自己評価調査表の試作版を作成し、筑波大学留学生センターにおいて予備調査を行った。また、その成果をオーストラリアのメルボルン大学で開催された第10回日本語教育研究大会において発表し、日本語教育関係者からのレビューを受けた。また、カザフスタンおよびウズベキスタンで開催された中央アジア日本語教育セミナーにおいて講演とワークシ

ョップを行い、本研究の概要説明と研究協力の要請を行った。

(2)漢字に関するCds調査の国内での実施

平成24(2012)年度は、学習者自身が漢字について何ができるようになってきているかを探るためにCds形式の調査紙を作成し、漢字力テストとともに実施した。また、海外調査に向けてシステムの安定した運用を図るため、サーバを購入し、WEBテストシステムのフィードバック画面の改良などの改修も行った。その研究成果は、名古屋大学で開催された日本語教育国際研究大会名古屋2012および名古屋外国語大学で開催された第5回「日本語教育とコンピュータ」において発表し、日本語教育関係者からのレビューを受けた。一方、米国の大学においてWEBテストを実施したところ、原因不明の不正終了が多発したため、海外調査実施の延期を決め、日本国内の日本語教育機関において漢字圏学習者、非漢字圏学習者および韓国の学習者を対象に、漢字力診断テスト、漢字SPOTテストとともに漢字に関するCds調査を実施した。

(3)漢字に関するCds調査の海外での実施

平成25(2013)年度は、前年度から繰り越した予算を使って、韓国、米国、メキシコにおいて海外調査を実施したほか、結果データの分析結果を参考に、テスト項目および評価項目の改良を行った。その研究成果は、オーストラリア国立大学で開催されたJSAA(オーストラリア日本研究学会)2013年研究大会、マドリードのコンプルテンセ大学で開催された第17回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム、トルコのチャナッカレ・オンセキズ・マルト大学で開催された第20回日本語教育連絡会議において発表し、日本語教育関係者からのレビューを受けた。これらの研究成果にもとづき、筑波日本語テスト集(TTBJ)の中に格納された漢字力評価テストの機能追加も行った。

(4)テスト結果およびCds調査結果の総括および漢字力評価システムの公開

平成26(2014)年度は、これまでに収集したテストデータおよび自己評価データの分析を総括的に進め、漢字力評価システムの完成を目指した。テスト結果には、漢字圏、非漢字圏、韓国の学習者それぞれに特異な点と不得意な点があることが明らかになったが、自己評価においては、文化圏やレベル、学習環境による異なりばかりでなく、個人差も大きいことが分かった。本研究の成果は、オーストラリアのシドニーで開催された日本語教育国際大会、アフリカのケニアで開催された東アフリカ日本語教育シンポジウムにおいて発表し、関係者からのレビューを受けた。漢字圏学習者のデータが日本国内にいる学習者に限られていたことから、10月に中国においてオンラインによるテストデータの収集を試みたが、当初の想定以上に現地での通信環境の影響を受けることが判明し、前年度

までとは異なる収集条件となったため、分析方法の再検討およびシステムの最終設計に時間を要し、予算を平成 27(2015)年度に繰り越した。本研究の最終成果発表は、米国のハワイ大学カピオラニ校で開催された第 6 回「日本語教育とコンピュータ」国際会議 2015 において行った。また、漢字力評価システムにテストのフィードバック画面を提示する機能を追加するためのシステム改修も行い、本研究の最終成果の一部として、WEB 上で受験可能な漢字力診断テストの公開と、その評価結果のフィードバックを実現できるようになった。

(5)日本語教育スタンダードにおける漢字力評価の位置づけ

本研究を通して得られた漢字力(漢字語彙力)の評価方法を日本語教育スタンダードにおいてどのように位置づけるべきかに関しては、実際場面で具体的にどのような言語活動ができるかという能力記述に合わせて、どのような言語素材(文法・漢字・語彙)が必要になるかというリストを作成するべきではないかと提言する。CEFR や JF 日本語教育スタンダードでは、「初級(A1,A2)・中級(B1,B2)・上級(C1,C2)の各レベルにおいて、どのような実際的な場面で、どのような技能(話す・聞く・読む・書くなど)について、具体的に何がどの程度できるようになっているか」という Cds 形式の能力記述文が提供されているが、各々の能力記述文を実現するために必要な漢字および漢字語彙の配当を行い、その運用力評価の方法を考える必要があると思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 20 件)

- 1) 加納千恵子、日本語漢字の学習支援をめぐる問題 学習の評価と学習者の意識、韓国日語教育学会 2015 年度第 27 回国際學術大會予稿集、査読無、2015、2-34
- 2) 加納千恵子、外国人の漢字学習を成功させるために 面白く、楽しく語彙学習につなげる、日本語学(明治書院)、査読無、Vol.34-5、2015、98-108
- 3) 孫媛・島田めぐみ・谷部弘子、日本語学習支援のための認知診断テストの開発、第二言語習得研究、査読有、18 号、2015、86-102
- 4) 石井恵理子、思考力としてのことばの力を育てる国語教育へ -対話による授業設計に向けて-、日本語学(明治書院)、査読無、Vol.34-12、2015、22-30
- 5) 加納千恵子、能力記述文による漢字力の自己評価の可能性、JSL 漢字学習研究会誌、査読無、7 号、2015、86-93
- 6) 加納千恵子・魏娜、学習者による漢字力評価について Can-do statements による漢字力意識調査から、筑波大学留学生セ

ンター日本語教育論集、査読有、30 号、2015、35-53

- 7) 加納千恵子、漢字の面白さ、楽しさを伝えたい 外国人に対する日本語教育を通じて、AJALT(公益社団法人国際日本語普及協会)、査読無、37 号、2014、18-22
- 8) 島田めぐみ・伊能裕晃・坂田睦深・澁川晶・新谷あゆり・東泉裕子・宮本典以子・谷部弘子、Can-do statements シラバスに基づく日本語初級教材の開発、東京学芸大学紀要 総合教育科学系、査読無、66、2015、539-54
- 9) 加納千恵子、Can-do Statements による漢字力の評価について、ヨーロッパ日本語教育(ヨーロッパ日本語教師会)、査読無、18 号、2014、115-120
- 10) 加納千恵子、漢字に関する Can-do Statements 試案、日本語教育連絡会議論文集、査読無、26 号、2014、40-48(e-journal)
- 11) 加納千恵子・魏娜、外国人日本語学習者の漢字力の評価について TTB(筑波日本語テスト集)を利用して、JSL 漢字学習研究会誌、査読無、6 号、2014、54-62
- 12) 加納千恵子、漢字に関する Can-do Statements 調査から見えてくるもの -漢字の知識と運用力についての学習者意識、筑波大学留学生センター日本語教育論集、査読有、29 号、2014、71-92
- 13) Etsuko Toyoda, Arief Muhammad Firdaus, Chieko Kano, Identifying Useful Phonetic Components of kanji for Learners of Japanese、Japanese Language and Literature、Journal of the American Association of Teachers of Japanese、査読有、Vol.47, No.2、2013、235-272
- 14) 加納千恵子・魏娜、留学生に対する日本語教育のアーティキュレーションの問題 2012 年 5 月筑波大学留学生センター日本語補講コースにおける J-GAP アンケート調査の結果から、筑波大学留学生センター日本語教育論集、査読有、28 号、2013、105-124
- 15) 谷部弘子・孫媛・島田めぐみ、中国語話者の日本語語彙理解に必要な認知的要素 -語彙能力認知診断テスト開発のための予備調査の結果から、東京学芸大学紀要 総合教育科学系、査読無、64 号、2013、367-376
- 16) 石井恵理子、年少者日本語教育における漢字教育 学ぶ力を支える漢字力の育成、JFL 漢字学習研究会誌、査読無、5 号、2013、1-11
- 17) 加納千恵子、日本語の漢字語彙処理能力測定のためのテスト テスト項目とテスト形式の検討、新時代的世界日語教育研究(高等教育出版社)、査読無、2012、73-81
- 18) 加納千恵子、POT による日本語能力の測定(4) -SPOT 形式テストによる中国人学習者の漢字語彙能力の測定-、異文化コミュニケーションのための日本語教育研究

2 (高等教育出版社)、査読無、2011、500-501

- 19) 酒井たか子、SPOTによる日本語能力の測定(2) -プレースメントテストとしての利用、異文化コミュニケーションのための日本語教育研究2 (高等教育出版社) 査読無、2011、496-497
- 20) 島田めぐみ・谷部弘子・孫媛、中国話者のための日本語語彙能力認知診断テストの開発、異文化コミュニケーションのための日本語教育研究2 (高等教育出版社) 査読無、2011、346-347

[学会発表](計 34件)

- 1) 加納千恵子・酒井たか子・小林典子・魏娜、筑波日本語テスト集(TTBJ)による日本語能力の評価 -即時的処理能力の評価と診断的評価、第6回「日本語教育とコンピュータ」国際会議 CASTEL-J2015 in Hawaii、2015年8月7日、ハワイ大学カピオラニ校(ホノルル、米国)
- 2) 魏娜・加納千恵子、TTBJによるWEB漢字語彙聴解テストの作成および利用、第6回「日本語教育とコンピュータ」国際会議 CASTEL-J2015 in Hawaii、2015年8月7日、ハワイ大学カピオラニ校(ホノルル、米国)
- 3) 加納千恵子、日本語漢字の学習支援をめぐる問題 -学習の評価と学習者の意識-、韓国日語教育学会2015年度第27回国際学術大会、2015年4月25日、東國大学校(ソウル、大韓民国)
- 4) 豊田哲也・島田めぐみ・谷部弘子・孫媛、日本語学習eラーニングシステムにおける学習者の小テストの学習活動分析、東アジア日本語教育・日本文化研究学会、2015年度国際学術大会、2015年8月22日、西南学院大学(福岡県福岡市)
- 5) 加納千恵子、漢字学習の支援 初級の非漢字圏学習者を対象に、ジャカルタ日本語教育セミナー、2015年3月14日、国際交流基金ジャカルタ事務所(ジャカルタ、インドネシア)
- 6) 加納千恵子、能力記述文による漢字力の自己評価の可能性、第53回JSL漢字学習研究会、2014年12月6日、東京大学本郷キャンパス(東京都文京区)
- 7) 加納千恵子、日本語教育における漢字学習の支援方法 -漢字の面白さと難しさを考える-、第8回NINJALフォーラム「世界の漢字教育-日本語漢字をまなぶ-」、2014年9月21日、国立国語研究所・国際交流基金日本語国際センター共催一橋記念講堂(東京都千代田区)
- 8) 加納千恵子、初級日本語学習者の漢字力の評価」第2回東アフリカ日本語教育会議、2014年8月9日、在ケニア日本国大使館日本広報文化センター(ナイロビ、ケニア共和国)
- 9) 加納千恵子・石井恵理子、Can-do statementsによる漢字力の自己評価、シドニー日本語教育国際研究大会 (SYDNEY-ICJLE 2014)、2014年7月12日、シドニー工科大学(シドニー、オーストラリア)
- 10) 豊田哲也・島田めぐみ・孫媛・谷部弘子、eラーニングデータを用いた日本語学習についての分析、東アジア日本語教育・日本文化研究学会2014年度国際学術発表大会、2014年8月23日、崑山科技大学(崑山、台湾)
- 11) 川上郁雄・野山広・石井恵理子・池上摩希子・斉藤ひろみ、「特別の教育課程」化は子どもたちのことばの教育に何をもたらすのか -年少者日本語教育のこれまでの成果と教育実践から考える-、2014年度日本語教育学会春季大会、2014年5月31日、創価大学八王子キャンパス(東京都八王子市)
- 12) 加納千恵子、漢字に関する Can-do statements 調査と漢字力 -漢字圏、非漢字圏、韓国の学習者による評価の違い-、第8回日本語実用言語学国際会議、2014年3月22日、国立国語研究所(東京都立川市)
- 13) 加納千恵子、漢字学習を支援するための方法、メキシコ日本語教育シンポジウム、2014年2月21日~23日、日墨会館・文化センター(メキシコシティ、メキシコ)
- 14) 加納千恵子、外国人日本語学習者の漢字力の評価を考える -運用力のテスト、診断テストおよび Can-do Statements による評価-、平成25年度日本語教育学会研究集会(中国地区)、2013年11月9日、島根大学教育学部(島根県松江市)
- 15) 加納千恵子、漢字に関する Can-do Statements 試案、第26回日本語教育連絡会議、2013年9月11日、チャナツカレ・オンセキズ・マルト大学(チャナツカレ、トルコ共和国)
- 16) 加納千恵子、Can-do Statements による漢字力の評価について Assessment of Kanji Ability using Can-do Statements、第17回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム：今、見直そう 日本語教育における評価、2013年9月6日、コンプルテンセ大学文学部(マドリッド、スペイン)
- 17) 加納千恵子、非漢字圏学習者の漢字力評価と音符の有効性、Japanese Studies Association of Australia 2013 Conference(豊田悦子、松下達彦、加納千恵子パネル発表：効率的な漢字学習のための構成要素を探る) 2013年7月10日、オーストラリア国立大学(キャンベラ、オーストラリア)
- 18) 加納千恵子・魏娜、外国人日本語学習者の漢字力の評価について -TTBJ(筑波日本語テスト集)を利用して-、第45回JSL漢字学習研究会、2013年6月8日、慶應大学三田キャンパス(東京都港区)
- 19) 酒井たか子・小林典子・加納千恵子、TTBJについて：公開に向けて、言語能力評価の

- 最前線～運用力の評価を目指して～科学研究費助成事業共同成果発表会、2013年3月28日、桜美林大学四谷キャンパス（東京都新宿区）
- 20) 島田めぐみ・谷部弘子・孫媛、診断的フィードバックのためのウェブ日本語語彙テストの開発、言語能力評価の最前線～運用力の評価を目指して～科学研究費助成事業共同成果発表会、2013年3月28日、桜美林大学四谷キャンパス（東京都新宿区）
- 21) Kano Chieko、Assessment of Kanji Ability in Japanese Language Educational Standards、2013 Annual Spring Conference of AATJ、2013年3月21日、Manchester Grand Hyatt San Diego Hotel(サンディエゴ、米国)
- 22) 加納千恵子、中上級の漢字語彙処理能力に関するCan-do Statements、2012中国日本語教学研究会年会、2012年12月15日、西安外国語大学（西安、中国）
- 23) 加納千恵子、日本語の漢字力CDSによる評価について、日本語教育国際研究大会名古屋2012、2012年8月18日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
- 24) 豊田悦子・アリフ・ムハンマド・フィルダウス・加納千恵子、非漢字圏学習者のための漢字の音符の研究、日本語教育国際研究大会名古屋2012、2012年8月18日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
- 25) 谷部弘子・孫媛・島田めぐみ、日本語語彙力認知テストー予備調査の結果ー、日本語教育国際研究大会名古屋2012、2012年8月18日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
- 26) 加納千恵子・魏娜、筑波日本語テスト集（TTBJ）の開発と試用(2)、第5回「日本語教育とコンピュータ」国際会議、2012年8月21日、名古屋外国語大学（愛知県日進市）
- 27) 孫媛・島田めぐみ・谷部弘子、認知診断モデルに基づくWeb日本語語彙テストの開発、第5回「日本語教育とコンピュータ」国際会議、2012年8月21日、名古屋外国語大学（愛知県日進市）
- 28) 加納千恵子、漢字・語彙教育について考えるー漢字を知っていると何ができるか？ー、九州日本語教育連絡協議会2011年度12月研修会、2011年12月10日、九州大学箱崎キャンパス（福岡県福岡市）
- 29) 加納千恵子、非漢字圏学習者への漢字指導法、中央アジア巡回日本語教育セミナー（ウズベキスタン日本語教育セミナー）、2011年8月29日、SHODLIK PALACE HOTEL Conference Hall（タシュケント、ウズベキスタン）
- 30) 加納千恵子、非漢字圏学習者のための漢字教育、中央アジア巡回日本語教育セミナー（カザフスタン日本語教育セミナー）、2011年8月25日、カザフスタン日本人材

- 開発センター（アルマトイ、カザフスタン）
- 31) 加納千恵子、SPOTによる日本語能力の測定（4）ーSPOT形式テストによる中国語学習者の漢字語彙能力の測定ー、第10回世界日本語教育研究大会、2011年8月20日、天津外国語大学（天津、中国）
- 32) 酒井たか子、SPOTによる日本語能力の測定（2）ープレースメントテストとしての利用ー、第10回世界日本語教育研究大会、2011年8月20日、天津外国語大学（天津、中国）
- 33) 島田めぐみ・谷部弘子・孫媛、中国語話者のための日本語語彙能力認知診断テストの開発、第10回世界日本語教育研究大会、2011年8月20日、天津外国語大学（天津、中国）
- 34) 加納千恵子、Web版テストによる非漢字圏学習者の漢字力の評価、Japanese Studies Association of Australia 2011 Conference、2011年7月5日、メルボルン大学（メルボルン、オーストラリア）

〔図書〕（計 3件）

- 1) 安高紀子・今井新悟・大隅敦子・小野塚若菜・加納千恵子・鎌田修・小林典子・酒井たか子・島田めぐみ・孫媛・野口裕之・村上京子・谷内美智子・谷部弘子・李在鎬、日本語教育のための言語テストガイドブック、くろしお出版、2015、247（86-109, 175-194）
- 2) 村上京子・加納千恵子・衣川隆生・小林典子・酒井たか子、スリーエーネットワーク、日本語教育叢書つくるテストを作る、2013、255（94-114, 141-169）
- 3) 加納千恵子・大神智春・清水百合・郭俊海・石井奈保美・谷部弘子・石井恵里子、スリーエーネットワーク、日本語教育叢書つくる漢字教材を作る、2011、203（1-35, 71-93, 128-142, 145-160, 164-187）

〔その他〕

ホームページ等
筑波日本語テスト集（TTBJ）：
<http://ttbj.jp>

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
加納 千恵子 (KANO, Chieko)
筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号：90204594
- (2) 研究分担者
酒井 たか子 (SAKAI, Takako)
筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号：40215588

谷部 弘子 (YABE, Hiroke)
東京学芸大学・留学生センター ・教授

研究者番号：30227045

石井 恵理子 (ISHII, Eriko)
東京女子大学・現代教養学部・教授
研究者番号：90212810

清水 百合 (SHIMIZU, Yuri)
九州大学・留学生センター・教授
研究者番号：90274539
(退職のため、平成 23 (2011) 年度まで
研究分担者)